

4.1.2 海外における実施把握の枠組み

第6期基本計画において、EBPMをより適切に行うために必要となるロジックチャートを設定するための調査を行う。

(1) ガバナンス構造及び政策構造の比較（三極比較）

各国・地域における実績把握の枠組み等の比較を行う前に、日米欧のガバナンス構造及び政策階層の比較を行った。

まず、ガバナンス構造を比較すると次の通りである。

	EU	米国	日本
モデル			
類型	補完・分権型	課題注力・分権型	統合・集権型？
特徴	横断的政策により 全体としての一体性を確保 しつつ、各国の取組を補完。	横断的政策により 全体として取り組むべき課題に注力 、各省の取組を補完。	基本計画によりSTI政策の 全体を方向付けるとともに、統合戦略により役割分担 。
強み	各国の自律性に委ねることで環境変化に柔軟に適応。評価などエビデンスベースで各国の調和と競争を促進、政策の生態系を自律的に維持可能。	各省の自律性に委ねることで、時勢に左右されず長期的課題へ対応。多面的なチェック&バランスの仕組みとそれを支える専門人材により、政策を高度化。	(評価が機能すれば) 全体の目的達成に向けて効果的・効率的に政策推進可能。
弱み	環境の劇的変化に対し、強権的対応ができない。	評価システムが形骸化しやすく、不断の見直しが必要。	「正しい」計画が前提で、環境変化等に対するリスクヘッジに課題。プログラム化が不十分。評価制度や人材が未成熟。各省による創意工夫のインセンティブ小？

図 4-7 ガバナンス構造の比較

(出典) 未来工学研究所作成

政策階層を比較すると次の通りである。

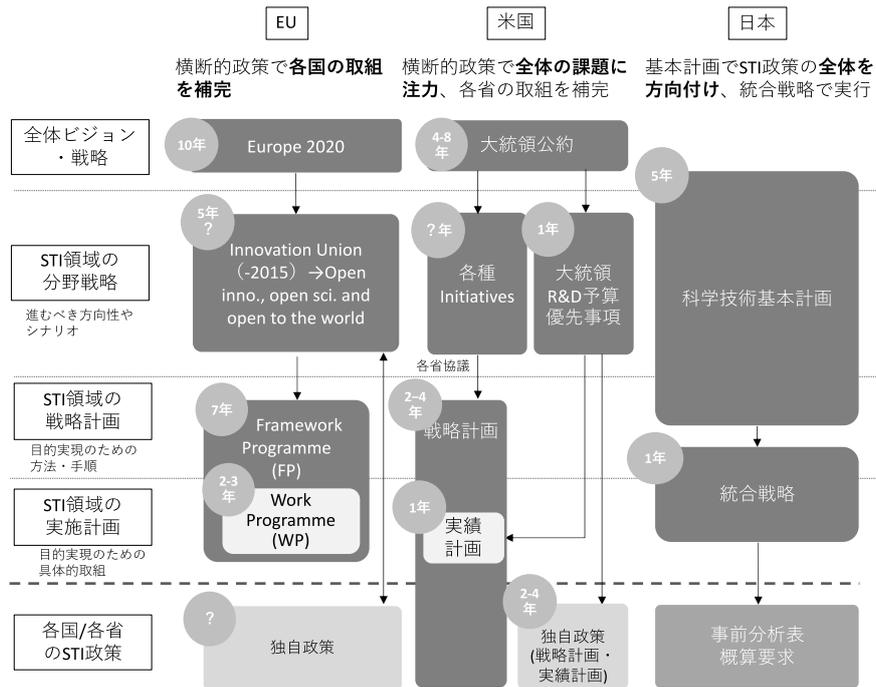


図 4-8 政策階層の比較

(出典) 未来工学研究所作成

(2) 評価システムの比較

次図は、評価システムの比較を行ったものである。

	EU	米国	日本
特徴	EU全体のビジョン（Europe 2020）からSTI領域の分野戦略（Innovation Union）、戦略計画（FP）、実施計画（WP）まで論理的に階層化。上位目標と明確な関連付けがなされているため、 下位階層の評価結果を集約することで効果的・効率的に政策改善につなげることが可能。	横断的政策（Initiative）についても省庁別の政策についても、大統領の任期に合わせた4年間の戦略計画（2年ごとに見直し）と、毎年度の実績計画を策定。予算化過程で大統領府予算局（OMB）や議会が指標等に基づきチェックするなど、 プログラム化を前提とした行政評価制度と調和する形で評価（法人評価もかねる） 。主に政策改善が目的。	政策目標-施策目標-達成手段（事務事業）からなる政策体系の中で、施策単位で事前分析表を作成。事務事業単位での事前評価（及び事後評価）を「政策評価法」に基づき実施。個別事業ごとに予算の執行状況を検証し、見直しにつなげる「行政事業レビュー」と統合。研究法人に関しては別途法人評価も実施。 「大綱的指針」ではこれらの既存評価制度と調和を図りつつ、アウトカム重視のプログラム評価の実現を促す。
指標等	全体ビジョン：ターゲットの達成状況 分野戦略：ターゲット実現に向けた34の行動の取組状況/27指標による現状のモニタリング 戦略計画：設定したインパクトの道筋に沿った全体としての成果の進展と寄与の評価/プログラム単位での評価 実施計画：KPIによる評価	戦略計画において、戦略目的・目標、業績目標、省庁優先目標（APGs）、省庁横断的優先目標（CAPGs）等を記載、年次業績計画とともに公表される年次業績報告書において、業績目標の達成状況の検証結果と改善計画、データの正確性・信頼性に関する説明、期間中に完了のプログラム評価の成果の要約等を記載。近年ではEBPM法に基づきLearning Agendaを導入。	（基本計画の評価） 統合戦略関連部分及びその他基本計画に基づき実施される各省の事業評価結果を集積すれば論理的には評価可能だが・・・ 統合戦略関連部分：設定した目標に対し、実施状況・現状分析を実施、目標達成に向けた施策・対応策を記載。 その他：基本計画に目標の記載なく、事業との紐付けが不明確。アウトカム指標の設定も不十分。

図 4-9 評価システムの比較

（出典）未来工学研究所作成